

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】
○新たな地域の核として、魅力的な学校づくりを推進した例

1. 市町村の概要

◆人口： 84,407人（令和元年5月現在）

◆小学校： 17校，児童数 3,605人 ◆中学校： 10校，生徒数 1,919人

※学校数，児童生徒数は令和元年5月1日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市は，少子化による児童生徒数の減少や学校の小規模化が進行する中，子どもたちにとってよりよい教育環境の整備を進めるため，平成26年1月から庁内組織である学校教育環境整備検討委員会等で調査・研究を行うとともに，平成27年からは学識経験者等の外部委員による学校再編有識者会議を設置。以降，地区説明会やアンケート調査，本市独自の事業である中学校合同生徒会，パブリックコメントなど様々な機会を通じて，保護者や子ども，地域，学校関係者などから意見を聴取。平成27年10月に「学校再編基本方針」，平成28年3月に「学校再編基本計画」について策定。この計画に基づき，平成29年1月に学校の統合など具体的な再編メニューの対象校や実施時期等を示した「第1次実施プログラム」を策定した。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

新たな地域の核として，魅力ある学校づくりに向けて

◆研究課題

- ・これまでのそれぞれの地域文化の融合と継承を図るため，新たな教育課程の編成
- ・統合に向けて，学校教育への地域住民の参加協働の在り方についての検討

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

- ①君津市立周東中学校（8学級，221人） ※令和元年5月1日現在
- ②君津市立清和小学校（7学級，70人） ※特別支援学級を含む
- ③君津市立小糸小学校（13学級，256人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

本市における児童生徒数の減少と学校の小規模化が進む中，「子どもたちにとってよりよい教育環境」を目指し，活力ある魅力的な学校づくりを推進するためには，全ての学校における適正規模・適正配置が必要と判断したため。

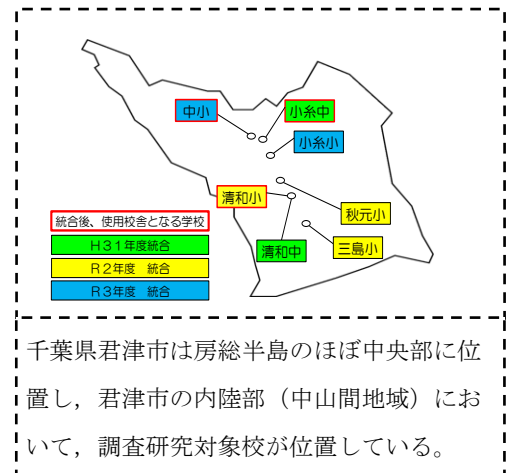
◆統合に至るまでの過程

- ・調査研究対象校の統合を決定するまでの期間：2年
- ・統合決定から開校までの期間：①2年 ②3年 ③4年
- ・統合の状況：平成31年4月に，小糸中と清和中が統合し，周東中が開校。令和2年4月に，秋元小と三島小が統合し，清和小が開校。令和3年4月に，中小と小糸小が統合し，小糸小が開校予定。

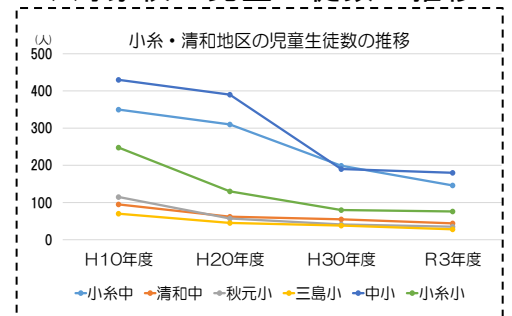
◆統合による学校の教育環境の変化の状況

- ・使用校舎が変更となる児童生徒は，スクールバス通学へ。
- ・使用校舎となる校舎の大規模改修，清和小校舎の改修については中学校から小学校への用途転用。

◆調査研究対象校の位置



◆対象校の児童生徒数の推移



4. 本調査研究において取り組んだ内容

◆これまでの地域文化の融合と継承を図る新たな教育課程の編成に向けた取組

～小糸・清和地区における統合に向けた取組をもとに～

統合準備室（各校の教務主任と市教育委員会で協議する部会）において、統合に向けた新たな教育課程の編成について協議・調整を行った。地域行事や学校行事の見直しを通して、地域文化の融合と継承を図るべく、以下のような取組を進めた。

【地域行事のもち方や参加形態の在り方についての工夫】

- ・敬老会（小糸・清和地区）について・・・統合後、中学生は小糸地区、小学生が両地区に参加
- ・地区文化祭（小糸・清和地区）について・・・開催日を同日に合わせて一緒に参加

【地域に根ざした学校行事の継承と融合】

- ・「清和学」

清和地区の郷土文化や自然環境について、生徒が地元の人々から学ぶ活動であり、「総合的な学習の時間」において実施していた。もともと地域との連携や小中連携が充実していたこともあり、中学校が統合後には、新たな教育課程として小学校に引き継いでいく方向で進めた。

- ・「小糸在来（大豆）の種まき・収穫・味噌づくり」の体験

従来、小糸地区では、食育活動の一環として、高校等の協力のもと行っていた。統合が決まってからは、事前交流（統合時の円滑な接続を目指した児童生徒間の交流）として、清和中の生徒にも参加・体験させることにより、地場産業への理解を深める契機になった。

- ・その他

事前交流等において、地域に根ざした学校行事や地域文化を、互いに紹介し学び合う機会を取り入れることにより、地域文化の融合と継承を図った。



【敬老会】



【地区文化祭】



【種まき体験】

5. 研究の成果と今後の取組

新たな地域の核としての魅力ある学校づくりにおいて、これまでの調査研究を通して、今年度開校した周東中学校においては円滑に進んでいると言える。また、統合を契機とした地域文化の融合や学校行事の精選は、教職員の多忙化軽減や授業時数の確保という点においても、大変効果的であった。特に、地域文化の融合と継承にあたっては、地域間はもちろん、子ども間の事前交流やPTA間の行事等の協議が密接に関係している。そうした中、地区文化祭や敬老会等の地区行事において、新しい学校としての文化・体育活動を披露することで、統合により広大になった地区の一員として、地区の活性化にも寄与するかたちとなり、その結果、両地区の方々にも喜ばれ、認められる場にもなった。

今後は、周東中学校の事例を活用して、これから統合を控える学校にも活かしていきたい。

6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

統合を進めていくうえで、これまでの事例が必ずしも全てあてはまるわけではないため、地域それぞれの実情をよく見極めて活用していくことが望ましい。また、統合に向けた協議や準備を進めていくうえで、統合対象校間や学校内の教職員間において認識の違いが生じることもしばしばあるため、情報共有フォルダなどを学校間で閲覧可能にしておく、縦と横の連携や共通理解を継続して図ることが可能となる。